

# 多孔性のナノ結晶薄膜

## 九大が開発 表面解析にも成功

【福岡】九州大学は高輝度光科学研究センター（JASRI、兵庫県佐

用町）と共同で、多孔性と配向性を持つナノ（ナノは10億分の1）結晶薄膜を開発、表面構造解析にも成功した。安定性が高く高効率な電極触媒開発のほか、エネルギーナノデバイスなど、環境・エネルギー問題の解決に

つなげていく計画。

構造解析にはJASRIが管理・運営する大型放射光施設「Spring-8」を用いた。

二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸着する機能を持つ多孔性物質は、CO<sub>2</sub>削減の観点から注目されている。基板表面にナノ積層膜を積み上げる技術にも関心が高まっているという。今回の研究は英科学誌「ネイチャー・マテリアルズ」電子版に31日に掲載される。